

報道各位

平成20年4月21日
沖縄電力株式会社

当社牧港火力発電所構内における
船舶会社による送油準備作業中の重油飛散について

本日10時55分頃、当社牧港火力発電所の燃料貯蔵施設へ発電用燃料（C重油）を供給するパナマ船籍のタンカー船上において、送油前の準備作業中に約20～30リットルの重油が船外へ飛散する事象が発生しましたので、お知らせいたします。

今回の事象において、飛散した重油のほとんどは、発電所構内の栈橋に付着しましたが、船と栈橋の間（約1メートル）にも飛散した重油の一部が確認されました。そのため、タンカー周辺約140メートルに展張してあったオイルフェンス（重油受入の際は、万一の事故に備えて常に設置）内で吸着マット等による早期の回収作業に努め、17時45分頃に回収作業を終了しております。なお、海域への影響はほとんどないものと思われま

今回の事象においては、当社設備に燃料を受入れる前の、船舶会社の作業中に発生したものではありませんが、同事象の発生により地域の皆さまにご心配をお掛けしたことをお詫び申し上げるとともに、作業を行った船舶会社には、今後二度とこのような事象を起こさぬよう再発防止策の徹底を求めています。

記

1. 重油飛散事象発生場所

牧港火力発電所（浦添市牧港5丁目2番1号）構内

2. 事象概要

燃料タンカーから発電所内の燃料貯蔵施設に送油する前の準備作業中、船舶会社の作業員が、点検孔から油槽内部を確認した後、点検孔の蓋を確実に閉めなかったため、空気圧により点検孔の隙間から重油が飛散した。

以上

添付：重油飛散事象発生場所 概略図

